

ペチュニア(F₁グランディフローラ) ソフィスティカ・コレクション

学名: *P. x hybrida*

種子粒数の目安: 1,200ペレット粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.5 から 6.0 の範囲とする。また初期の培地の養分は中庸とし、EC 値は 0.75mmhos/cm(1:2)以下が適正

播種

覆土はしないほうがよい。播種後はペレットを完全に融解させるため十分に水を与える

ステージ 1 - 発芽にはだいたい 4 日要する

地温: 22-24°Cが適正

光条件: 明るい条件のもとで発芽させる。とくにソフィスティカ・ライムバイカラーはステージ 1 では明るい条件でよく育つ

水分: ステージ 1 では、最適な条件として水分を保ち培地を十分に湿らせる(5段階の最もウェットの level 5)

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度をほぼ 100%に維持する

ステージ 2

地温: 20-24°Cが適正

光条件: 26,900ルクス(2,500 f.c.)まで上げてても可

水分: 培地の水分を少し抑え(level 4)、根が培地の中を行き渡るように促す

肥料: レート 1(100ppm(N)、EC 値が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18-21°Cが適正

光条件: 26,900ルクス(2,500 f.c.)まで上げてても可

水分: 水やりの直前までは、培地の表面がやや茶色になるくらいまで乾いた状態にする(level 2)。このようにドライとウェット(level 2 から 4)を繰り返す続けるようにする

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mmhos/cm)に上げる。苗の動きが遅い場合は、硝酸態とアンモニア態の肥料を交互に与え、栄養生長を促す。培地は、pH を 5.8 から 6.2 の範囲を、EC の値は 1.0-1.2 mmhos/cm(2:1)を維持する

(右上の矮化剤に続く)

矮化剤: プラグの生長制御については、まずは環境や栄養の条件、またかん水等の管理によって方策を講じるようにし、それから矮化処理剤を用いた化学的手段に入るといった段階を踏むことが望ましい。苗の不要な伸張を防ぐには、アンモニア態肥料の使用を最小限に抑える。また、DIF(昼間と夜間の温度差)を用いても丈の伸張を抑えることが可能である。化学的な矮化処理剤を用いる場合は、すべて使用前に試験を行うことが望ましい

アメリカ仕様: B-ナイン 5,000ppm を 1,2 回ほど散布する。最初はプラグ苗の段階で、本葉 2,3 枚が出たあたりで行なう。さらにそれから 7 日おいて 2 回目を散布する。この処理で、苗が生長した後の地際株が充実しやすくなる効果がある

北ヨーロッパ仕様: B-ナイン 1,250ppm を必要に応じて 1-3 回ほど散布する試験を行った結果、効果が確認された

ステージ 4

地温: 16-18°Cが適正

光条件: 温度の調整が可能であれば、53,800ルクス(5,000 f.c.)まで上げても可能

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

10-13cm: 1本植え

15cm: 1-3本植え

25cm: 3-4本植え

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.5 から 6.2 が適正、培地の初期の養分量は中庸とする

温度

昼間温度: 16-24°C

夜間温度: 14-18°C

ソフィスティカは、最低でも 10°C以上の条件で育てるようにしましょう。日長時間が適正であれば、生産期間中の平均温度が到花日数と密接に関係します。ソフィスティカは、温度の低い条件では開花まで長くかかります

光条件(照度)

温度が適正に保持されている間は、できるだけ高く維持する

肥料

リン酸分の低い硝酸態の肥料をレート 3(225-300ppm(N)、EC 値が 1.5-2.0mmhos/cm)の濃度でかん水と交互に与える。株の生育具合を見ながら、必要であればアンモニア態と硝酸態をバランスよく使って株に勢いを付けさせてもよい。pH は 5.8 から 6.2 を維持する。

あるいは上記の範囲で EC 値と pH が維持されるのであれば、より高頻度にレート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mS/cm)の肥料を与えるようなやり方でも可能

矮化処理剤

苗の移植後 7 日ほどしてから B-ナイン 5,000ppm の散布を開始する。あるいは、ドリームズ・シリーズなど他のグランディフローラペチュニアに用いている矮化剤処理の方法を用いる

矮化剤の使用に関しては、自身の施設に用いる最適な濃度や倍率を決めるにあたって、事前に試験を行うことが望ましい

日長時間との関係

ソフィスティカは、最小で 10 時間の日長を確保できれば上手く開花させることが可能なペチュニアである。ただし長日条件と比べるとだいたい 3 日から 6 日、到花日数が遅くなる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288-406 穴トレイ): 4 から 6 週

移植から出荷適期まで: 5 から 7 週

コンテナ サイズ	植付本数 /ポット	春生産 (春出荷)	夏生産 (夏出荷)
10cm ポット	1 株	10-12 週	8-10 週
15cm ポット	2-3 株	10-12 週	8-10 週
25cm ポット・ バスケット	3-4 株	10-13 週	8-11 週

予想される一般的な障害等

適正な管理を施し、いわゆる IPM(総合的病虫害管理)が行なわれているのであれば、病気や虫害によるとくに大きな問題は発生しないであろう

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点:EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。